

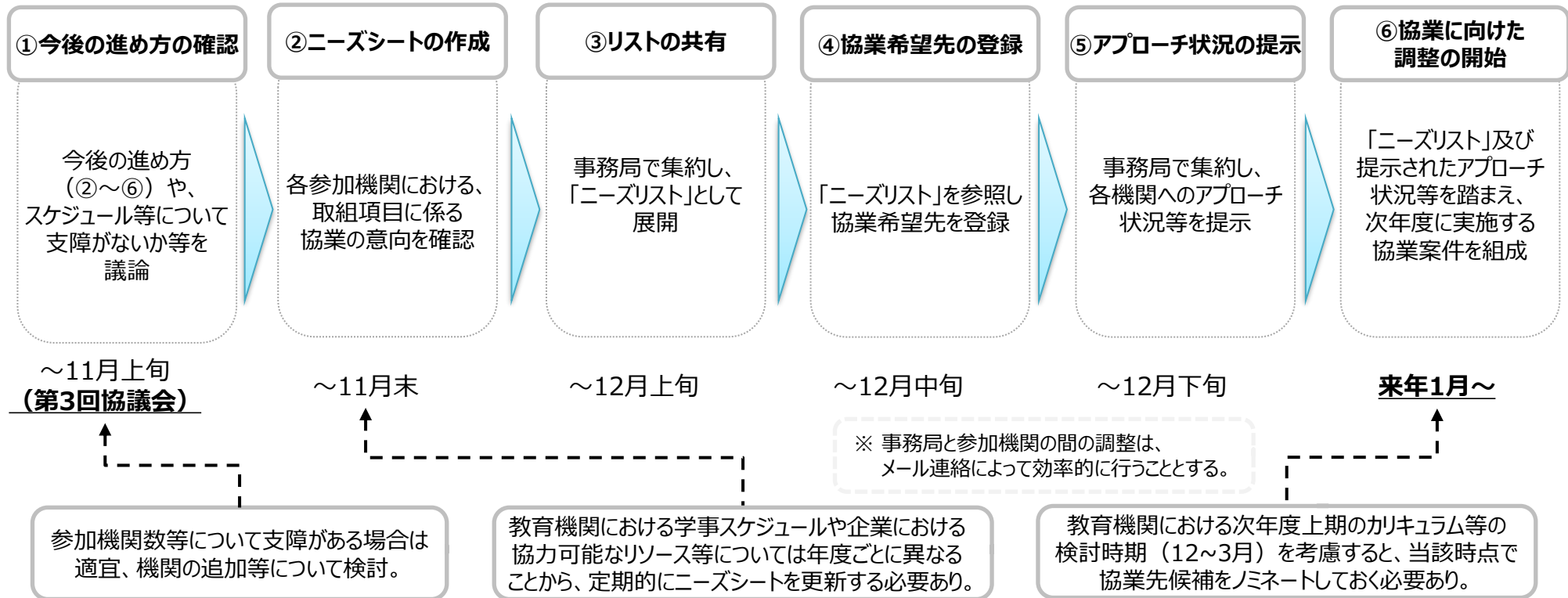
次年度に向けた協業の 調整方法等について

令和5年11月10日

経済産業省 中部経済産業局
(中部地域半導体人材育成等連絡協議会 事務局)

次年度に向けた協業案件の組成に係る今後の進め方・スケジュール等

- 引き続き、本連絡協議会の取組趣旨である、「半導体関係の研究室等に進む学生の増加」、「半導体産業への人材輩出の拡大」に資する取組として、参加機関間の協業による取組を継続していく。
- ついては、今後、次年度に向けた協業案件の組成に向けた調整を進めることとしたい。



【参考】本年度の協業の進め方に関する意見・課題等

<全体について>

- 各企業の対応状況・内容について、温度差がある。
→取組状況について、協議会の場以外にも、適宜各社の進捗状況を確認・情報共有できることが望ましい。
- 初年度ということもあってか、手探りの状態で双方とも積極的な取組に至らなかったと思われる。
双方の考えを元にして協業可否を決めていく必要がある点が難しい。
→常日頃、話をしていく中で方向性を見いだせる可能性があるのではないか。今後、さらなる密な連絡が必要。

<工場見学について>

- 工場見学に適した工程・ルートがなく、教育機関に積極的に呼び掛けづらい（クリーンルーム以外の工程を見学）。インターンも同様。
→クリーンルーム内に大人数で入ることは出来ないのでは、映像を製作し、上記ルートの見学＋αをしたい。
- 「百聞は一見に如かず」という意味で、非常に有効な取組だと思うが、大人数を一度に連れていくのは難しい。
また、移動手段（バスなど）の費用捻出も簡単ではない。
→数十名人規模の見学会を複数開催することで対象とする学生全員が参加することができた。

<インターンシップについて>

- インターンシップ募集に関して、PRや応募は各機関毎に実施しており、非効率。
→本協議会でセキュリティ性の高いWeb上での場を用意、PRや募集に活用することはどうか。
- インターンシップについて、大学組織として実施する場合には個別対応でのご相談が必要になる場合があり、オープン型インターンシップの場合には学生への案内活動が中心となり、参加については学生の自主性に任せることになってしまう。
- 高専は大学と夏季休業が異なるため、期間でのマッチングがとれないことがある。
また、折角インターンシップを案内いただいても、常に企業に学生を送れるような体制になっていない。
→公募型でないインターンシップがあるとよい。

<その他>

- 他地域との連携をより積極的に行い、知見の共有・取り組みの共有を行うべき。
各地域の経済産業局間で情報交換を行い、参加機関と共有し、他地域で有益な活動を中部地域にどう取り込めるのかを参加機関で協議できるとよい。
- 業界を活性化させる（活動を盛り上げる）ためには、幅広い取り組みがあっても良いと考える。
人材育成や業界PRだけではなく、産学連携のプラットフォームとして活用をしても良いのではないかと。

今後の連絡協議会の開催スケジュールについて

- 第4回を年明け 1 月以降（時期未定）に開催。共催の取組やWGによる作業進捗の共有等を中心とした内容を想定。

	令和4年度			令和5年度												令和6年度	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
協議会の開催予定	事前 会合 1/20		第1回 協議会 3/23			第2回 協議会 6/1					第3回 協議会 11/10		第4回 協議会 (P)				第5回 協議会 (P)
			○各機関における 取組ニーズリストの共有 ○共催の取組に係る 取組方針の共有 等			○参加機関主催の取組に係る アプローチ状況の共有 ○共催の取組に係る 実施体制の共有 等				○上半期における協業の 取組状況の共有 ○次年度取組に向けた 取組ニーズの作成依頼 等			○取組の実施に向けた協業への着手 (次年度の協業調整状況の確認) ○参加機関と事務局による共催の取組 状況の共有、次年度の取組の検討 ○WGにおける進捗の共有 等				○前年度下半期における 取組状況の共有 ○協業体制による実施 取組案の共有 等
参加機関主催の取組	令和5年度の取組																
・工場見学 ・特別講義の実施 ・インターンシップ ・業界説明会 等	希望する連携先へのアプローチ、 参加機関主催の取組の実施																
参加機関と事務局 による共催の取組	令和5年度の取組																
・合同業界説明会 ・人材育成プログラムの 検討 等	各機関における 取組ニーズの 収集 実施に向けた 検討体制の 調整 参加機関と事務局等による共催の取組の実施 人材育成プログラムの検討：構成案・作成スペック等の検討（～12月）、教材作成の開始（1月～） 合同業界説明会：11/11 オンラインセミナー、12/9 東海・12/16 北陸における対面セミナー																
令和 6 年度の 取組の検討	令和6年度の取組																
	各機関の 取組ニーズ収集 希望する連携先へのアプローチ、 参加機関主催の取組の実施 参加機関と事務局による 共催の取組の実施																

本日ご意見をいただきたいポイント

- 以下の点について、参加機関よりご意見をいただきたい。

【①協業の進め方について】

- 参加機関数について

次年度についても、本連絡協議会に参加する機関間で連携した協業の取組を実施していただく想定。

→本連絡協議会への機関の追加の必要性はあるか（協業の調整において産学それぞれの機関数に不足はないか）。

- 調整方法について

次年度の協業についても、本年度と同様の手法・様式等をもって進める想定。

→改善すべき点等はあるか。あるいは、簡略化が図れるようなアイデアがあればご意見をいただきたい。

- スケジュールについて

本連絡協議会の開催後、ニーズシートの作成、ニーズリストの取りまとめ、協業希望先の登録等を経て、来年1月以降を目処に協業案件の組成に向けた機関間の調整を開始していただく想定。

→時期は適切か。あるいは遅い場合、具体的にいつ頃から調整を始めることとするべきか。

【②その他、協議会に期待する事項等について】

- 協議会として行うべき取組について

産学の協業による工場見学や特別講義等の実施、また、参加機関と事務局との共催による合同業界説明会や人材育成プログラムの検討のほか、実施が必要と考えられる取組はあるか。

※ご意見いただいた取組や参加機関と事務局との共催による取組については、次回（第4回）に検討したいと考えております。